

Jミルクが2023年5月26日に公表した「需給見通し(※2023年3月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「牛乳類は前年を下回る推移～8月には価格改定を控え、積極的な需要拡大を～」

・5月の生乳需給実績は、飲用等向は前年比▲3.0%となったものの、生乳生産量は北海道、都府県ともに引き続き前年を下回り、全国では▲4.4%と生乳生産量の減少幅が大きく、乳製品向は前月の減少率を上回る▲6.0%となった。

なお、全国指定団体受託乳量(速報)では6月中旬で前年比で▲4.8%となっており、6月の統計(生乳生産量)については過去の傾向から▲4～5%程度前年より下回ると予測され、引き続き乳製品向けについても前年を大きく下回る可能性が高い。

・乳製品向仕向量の減少から脱脂粉乳とバター生産量は▲8%程度となった。バターは好調な業務用需要が牽引し、出回りは前年を上回る水準が継続しているものの、国家貿易による輸入売渡を含めると、在庫量は前月よりも増加した。一方、脱脂粉乳は全国協調の在庫削減対策の効果が一定程度あるものの、対策分を除く実需としては大きくないと推定され、出回りは14ヶ月振りに前年同月比で減少に転じており、在庫量は前月よりも3千ト程度積み上がる結果となった。特に脱脂粉乳は、単年度ギャップが製品ベースで43千トと試算されており、2023年度も在庫解消対策継続による消化が必要な状況となっている。

・6/26週の牛乳類の販売動向は、前週(6/19週)よりも販売個数は増加した。例年同様に気温の上昇とともに販売個数は増加しているものの、前年を下回る低調な推移が継続している。食料品全般の値上げペースは引き続き高水準で推移しており、この先も生活防衛意識は強く働くと見込まれる。8月には牛乳類を中心に製品価格改定・容量変更が控えるなか、引き続き低調な消費が続くことを想定せざるを得ない。一方で7/6に気象庁が公表した向こう1ヶ月予報では、全国的に高温となる可能性が高く(高い確率60-70%)となっており、来週には梅雨明けも予測されている。飲用需要が急速に高まる期待もあるため、今後の動向を注視しつつ安定的な製品供給を果たせるよう広域流通体制の準備や小売流通等への供給体制の構築が不可欠である。

・訪日旅行者数については2019年同月と比較して68%まで回復しており、業務用需要の回復に寄与していると考えられる。今後、中国の団体旅行が解禁されれば更に経済活動が活発となる期待がある。

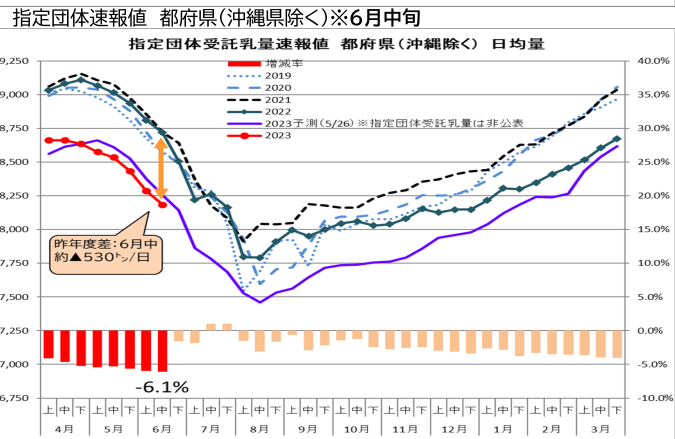
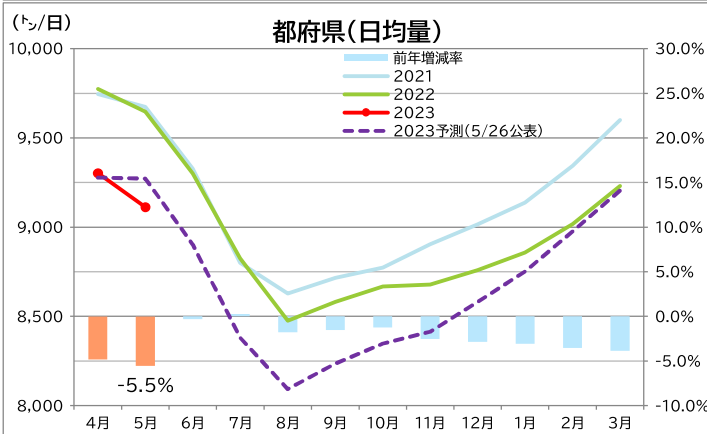
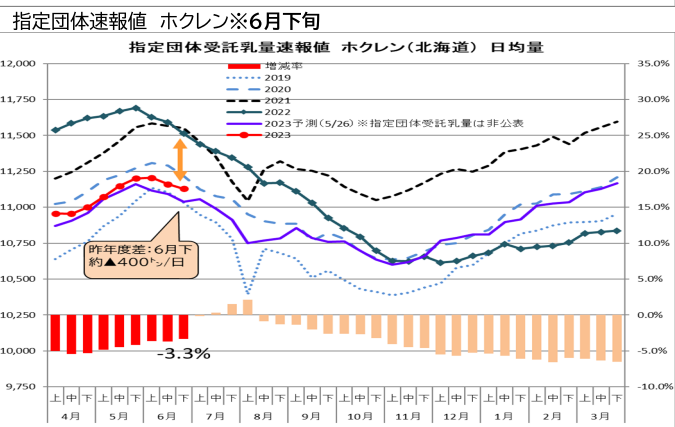
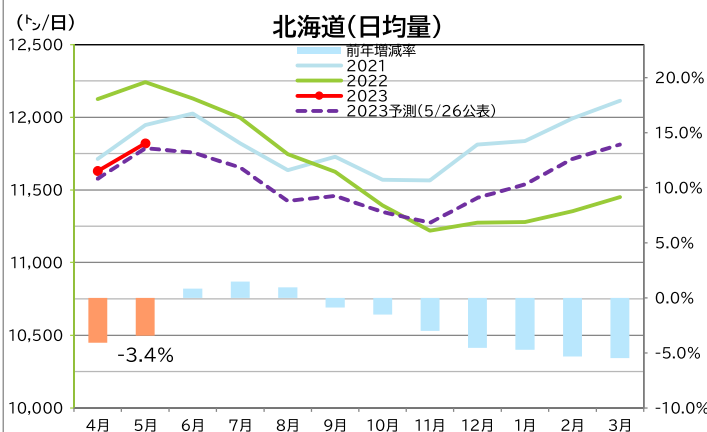
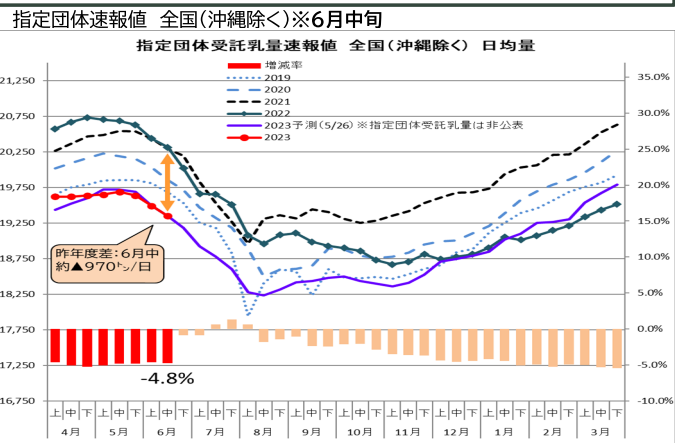
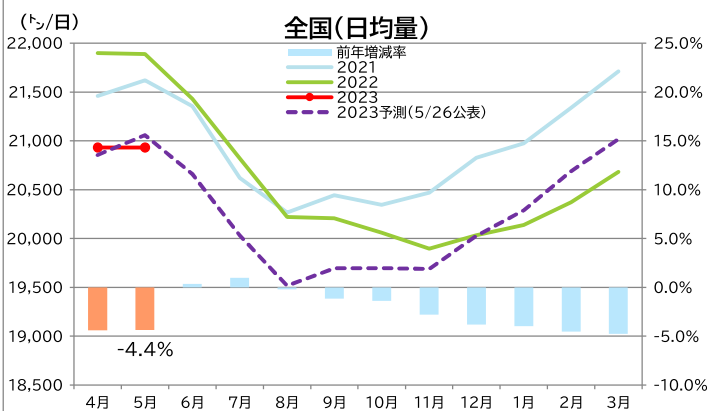
・需要の見通しは今後も不透明であるが、業界としては情勢変化を注視しつつ、飲用需要に対して安定供給を図りながら引き続き積極的な需要拡大に取り組むことが重要である。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)5月の生乳生産量は、全国648.9千ト(前年同月比95.6%)、北海道366.4千ト(同96.6%)、都府県282.5千ト(同94.5%)。

(2)Jミルク予測値(全国652.8千ト、北海道365.4千ト、都府県287.4千ト)との比較は、北海道はやや上振れ、都府県は下振れとなり、全国では下振れとなった。

(3)直近の指定団体速報値は全国が6月中旬で同95.2%、都府県(沖縄除く)が同93.9%、北海道は6月下旬で96.7%となった。

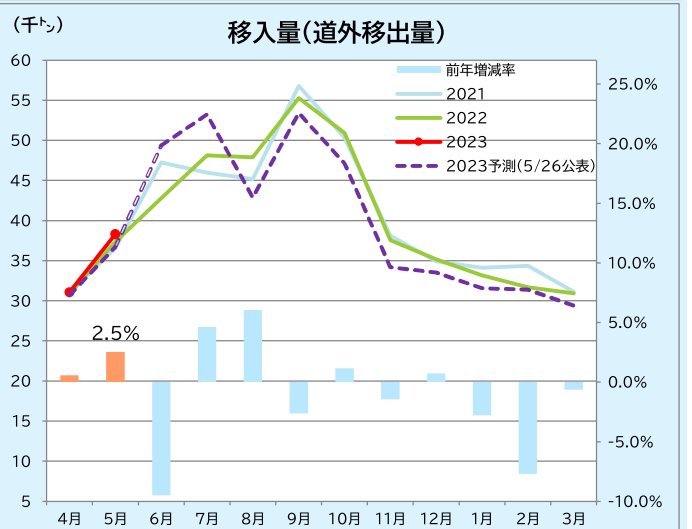
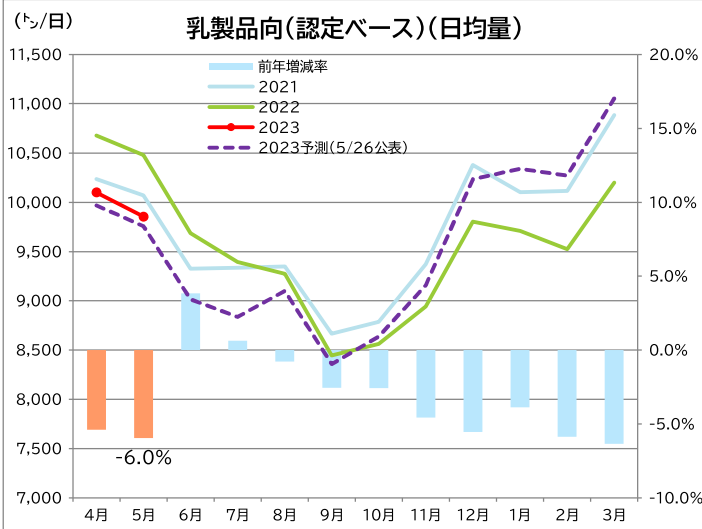
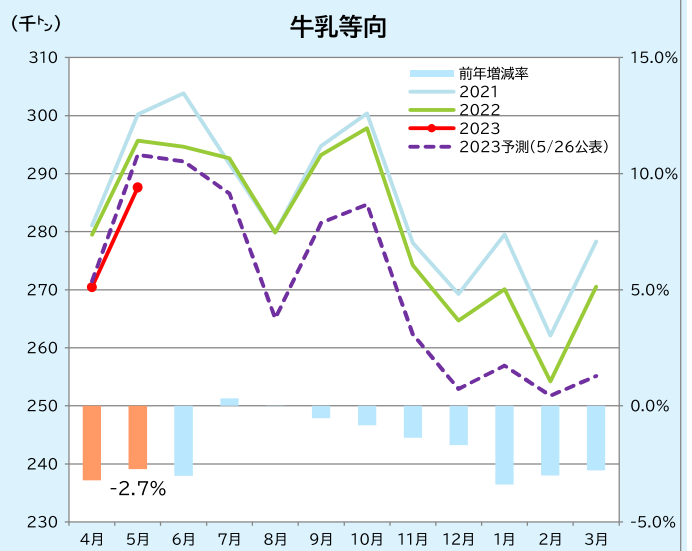
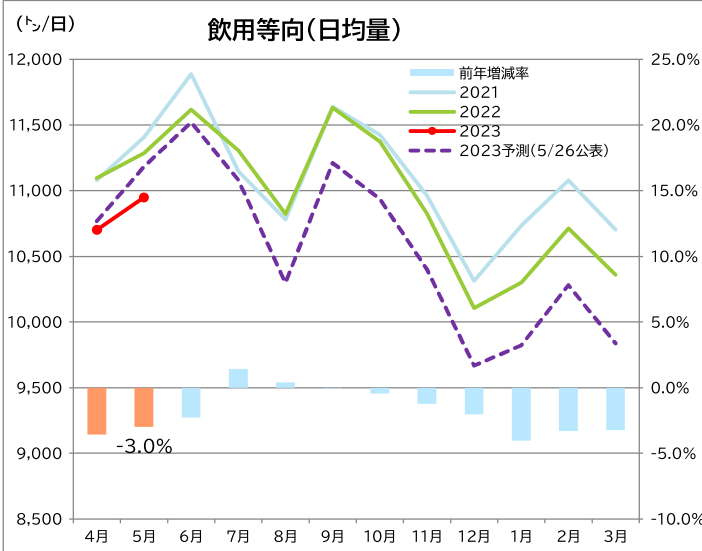
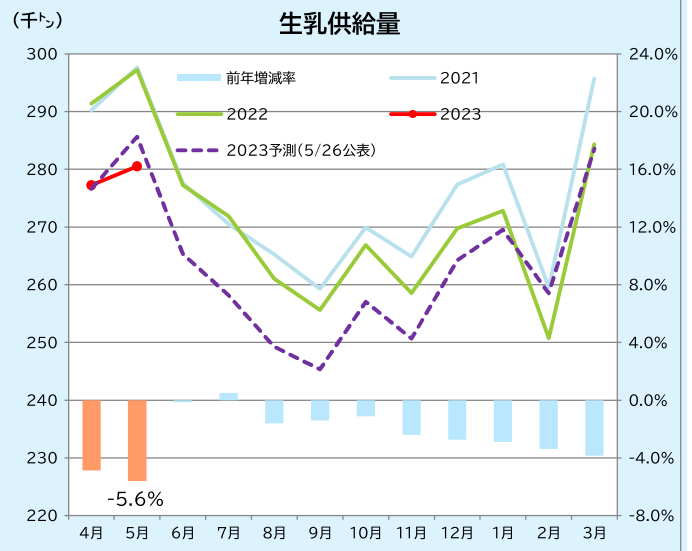
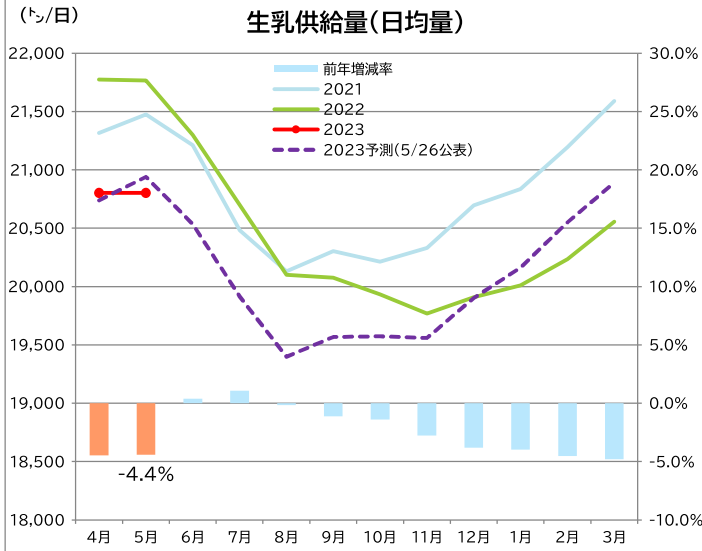


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)5月の生乳供給量は644.9千ト(前年同月比95.6%)、飲用等向339.4千ト(同97.0%)、乳製品向(認定ベース)305.5千ト(同94.0%)。
 (2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、生乳供給量の減少量の方が大きく、乳製品向は大きく前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:649.1千ト)は下振れしたものの、飲用等向(予測値:346.7千ト)が大きく下振れしたため、結果乳製品向(予測値:302.5千ト)は上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)5月は、生乳供給量280.5千ト(前年同月比94.4%)、牛乳等向287.6千ト(同97.3%)。
 (2)北海道からの移入量について、38.3千ト(同102.5%)と前年をやや上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:285.6千ト)、牛乳等向(予測値:293.2千ト)は下振れ、北海道からの移入量(予測値:36.7千ト)はやや上振れとなった。



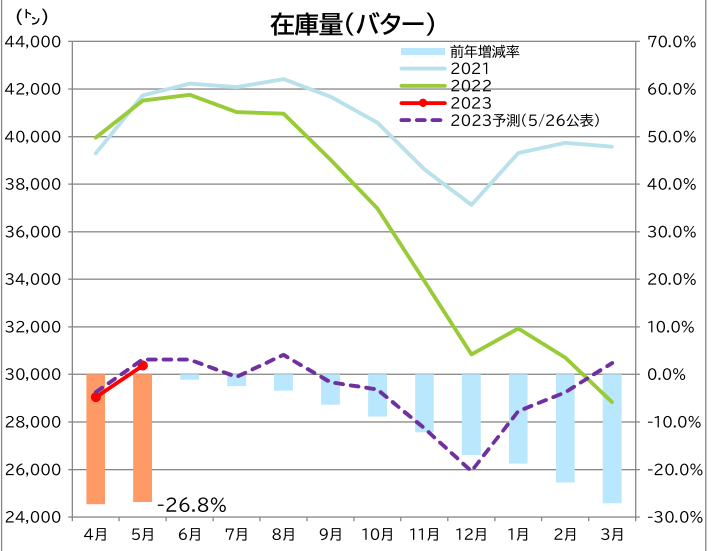
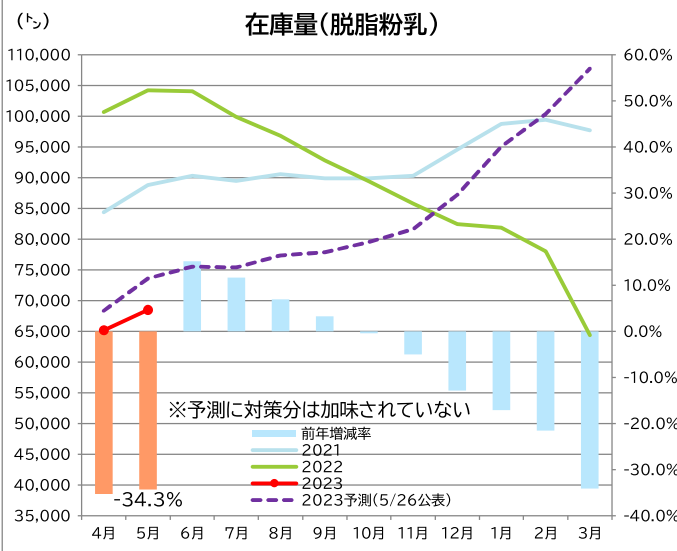
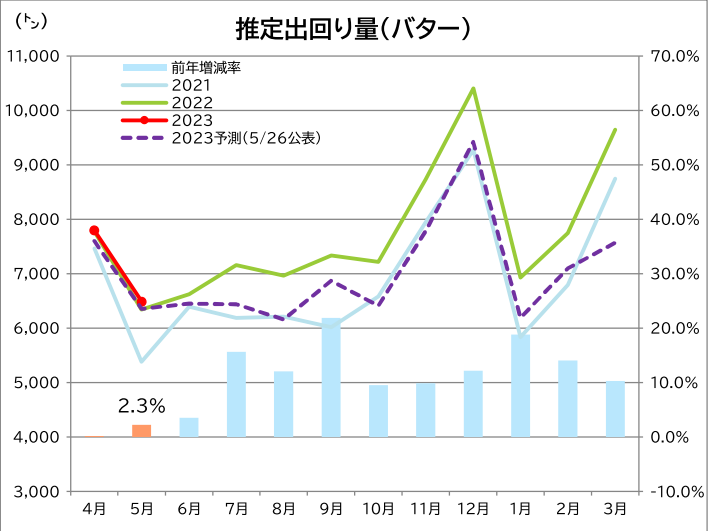
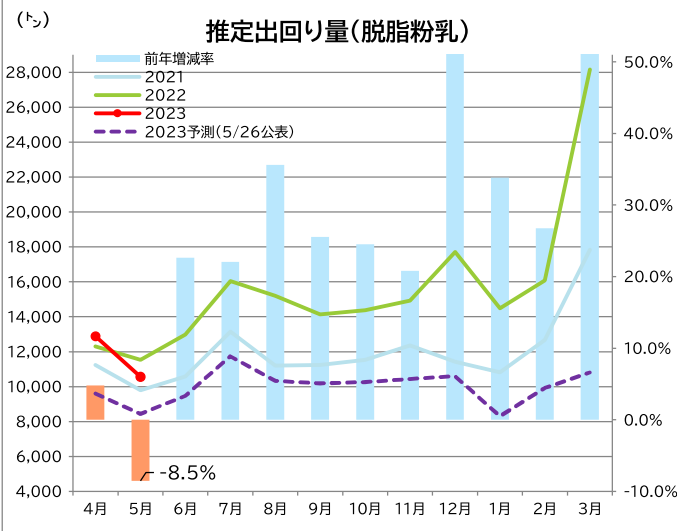
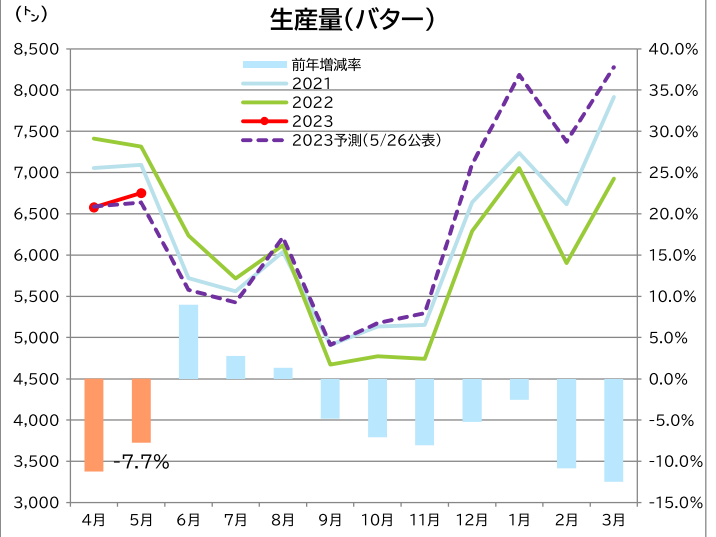
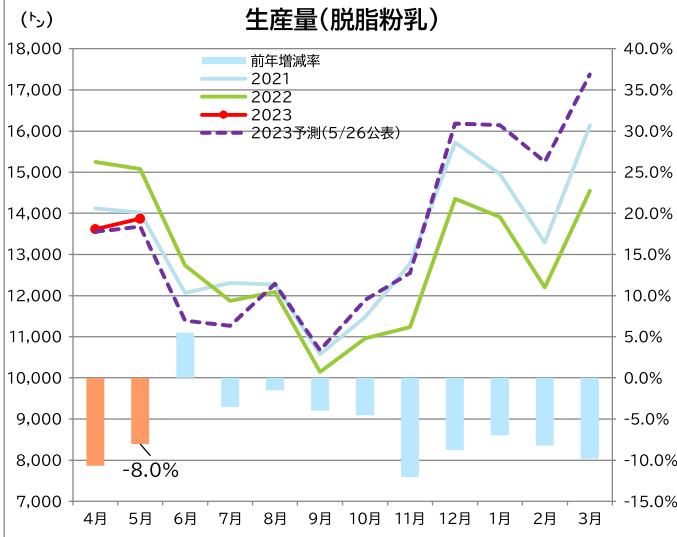
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、5月の生産量は13.9千ト(前年同月比92.0%)、推定出回り量は10.6千ト(同91.5%)となった。出回り量よりも生産量が上回ったことで、在庫は前月よりも+3.3千ト程度増加し、結果在庫量は68.5千ト(同65.7%)となった。在庫量は昨年の5月をピーク(104.2千ト)から在庫対策等の効果により減少し、直近は3ヶ月連続で6万ト台を維持している。5月26日にJミルクより公表した需給見通しでは、在庫対策を講じない場合、需要と供給の単年度ギャップは4.3千ト程度となり、在庫量は再び10万トを超える高水準になると予測されている。新商品の投下等、需要拡大に努めるとともに、2023年度も全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳への置換を最大限かつ着実に取り組む必要がある。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、4月の生産量は6.8千ト(同92.3%)、推定出回り量は6.5千ト(同102.3%)となった。出回り量よりも生産量が上回ったほか、国家貿易による輸入売渡分を考慮すると、結果在庫量は30.4千ト(同73.2%)と前月よりもやや増加した。在庫量は13ヶ月連続で前年を下回っており、引き続き消費動向を注視しつつ、国家貿易も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。

⇒脱脂粉乳・バターともにコロナ禍前の在庫水準まで減少しているが、今後製品価格改定による需要減少が懸念され、動向に注視が必要。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)6月の動向(表①参照) ※速報値

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.0%、成分調整牛乳:同84.3%、加工乳:同89.9%、乳飲料:同96.8%。

牛乳類では同95.1%

【参考】2021年6月比…牛乳:90.3%、成分調整牛乳:81.6%、加工乳:88.6%、乳飲料:90.4%(牛乳類トータル:89.6%)

・販売単価は、牛乳:207.1円、成分調整牛乳:192.8円、加工乳:210.5円、乳飲料:164.1円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(6/26週)の販売個数は、牛乳:前年同期比92.7%、成分調整牛乳:同82.9%、加工乳:同88.8%、乳飲料:同92.9%。

牛乳類トータルでは同91.9%

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

品目	区分	2023/1-	2023/2-	2023/3-	2023/4-	2023/5-	2023/6-	2023/6- 2022/10価格差	2023/6- 2023/3価格差
		販売個数	152,958	141,046	157,260	157,169	164,698	162,569	16.8
トータル	販売個数前年比	93.9	93.1	95.8	96.0	95.7	95.1		
	販売単価	198.0	197.8	198.3	199.6	199.9	199.9		
牛乳	販売個数	115,620	106,788	119,417	120,068	126,050	124,601	16.9	0.6
	販売個数前年比	92.8	92.4	95.6	96.5	96.4	96.0		
成分調整牛乳	販売個数	10,874	10,022	10,992	10,701	11,123	10,945	19.1	3.5
	販売個数前年比	88.9	86.4	87.3	84.5	84.6	84.3		
加工乳	販売個数	3,068	2,907	3,253	3,206	3,233	3,187	20.4	10.6
	販売個数前年比	95.5	96.2	97.6	95.6	90.7	89.9		
乳飲料	販売個数	23,397	21,330	23,597	23,195	24,291	23,836	14.4	3.8
	販売個数前年比	102.5	100.2	101.1	99.3	98.8	96.8		
	販売単価	157.3	159.7	160.3	163.1	163.9	164.1		

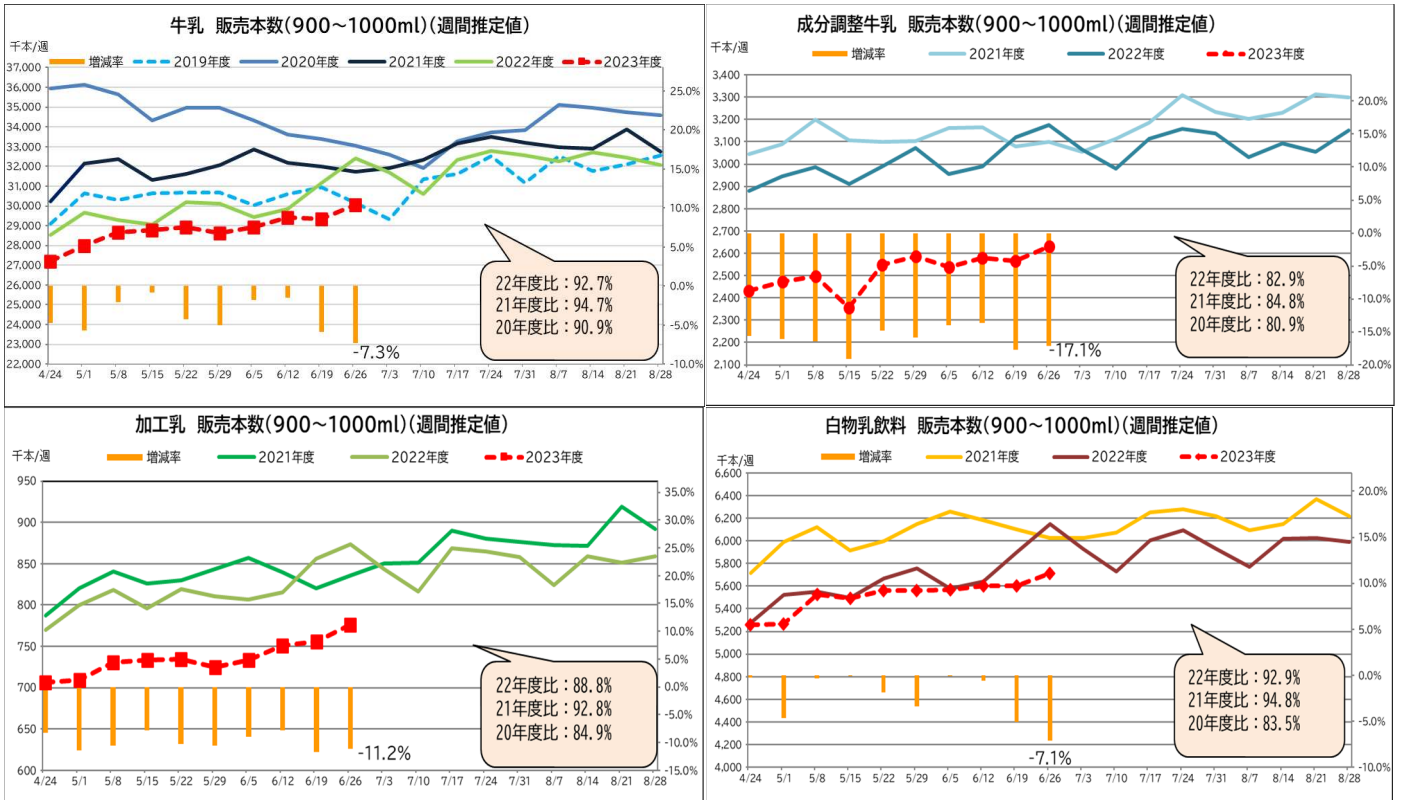
単位:千個、円

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	5.8-	5.15-	5.22-	5.29-	6.5-	6.12-	6.19-	6.26-	23.6.26- 22.10.24 価格差	23.6.26- 23.3.20 価格差
		販売個数	37,424	37,658	37,755	37,499	37,781	38,338	38,260	39,162	16.5
トータル	販売個数前年比	96.9	98.5	95.2	94.3	97.4	97.6	93.2	91.9		
	販売単価	199.8	199.7	200.0	199.8	199.8	199.8	200.0	199.8		
牛乳	販売個数	28,666	28,791	28,914	28,624	28,938	29,400	29,338	30,043	16.7	0.4
	販売個数前年比	97.9	99.1	95.8	95.0	98.3	98.5	94.2	92.7		
成分調整牛乳	販売個数	2,497	2,529	2,547	2,587	2,539	2,581	2,566	2,631	18.4	3.6
	販売個数前年比	83.6	86.9	85.2	84.2	86.0	86.3	82.2	82.9		
加工乳	販売個数	731	749	735	725	734	751	756	776	19.9	9.5
	販売個数前年比	89.3	94.1	89.7	89.4	90.9	92.1	88.3	88.8		
乳飲料	販売個数	5,530	5,589	5,558	5,562	5,571	5,605	5,600	5,712	14.3	4.5
	販売個数前年比	99.6	101.7	98.1	96.7	99.9	99.4	94.9	92.9		
	販売単価	164.0	164.0	164.1	164.0	164.1	163.8	164.0	164.2		

速報

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(6/26週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)販売個数について、全ての品目で前週(6/19週)よりも減少した。はっ酵乳全体としても前年を下回る推移となっている。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	5.8-	5.15-	5.22-	5.29-	6.5-	6.12-	6.19-	6.26-
ドリンクタイプ	➡	➡	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
個食タイプ	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
大容量タイプ	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇

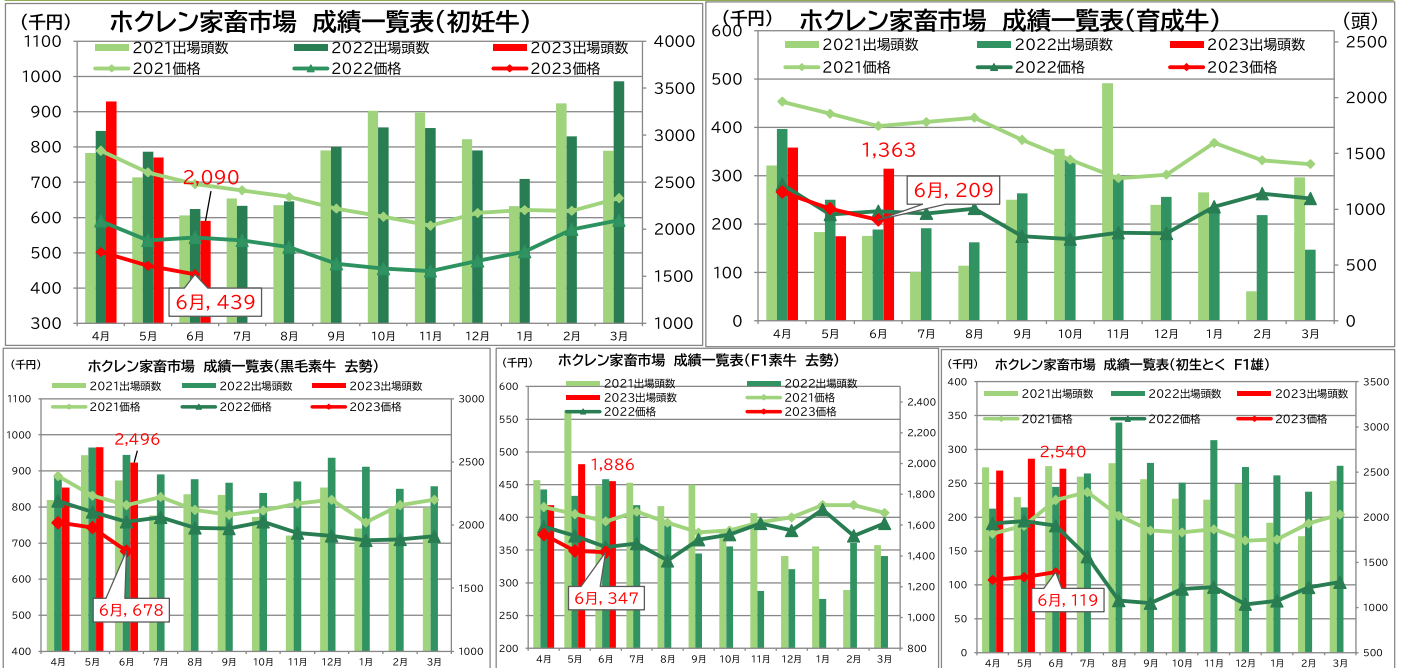
- ⬇ : 前年比90%未満
- ➡ : 前年比105%以上110%未満
- ⬇ : 前年比90%以上100%未満
- ⬆ : 前年比110%以上120%未満
- ➡ : 前年比100%以上105%未満
- ⬆ : 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

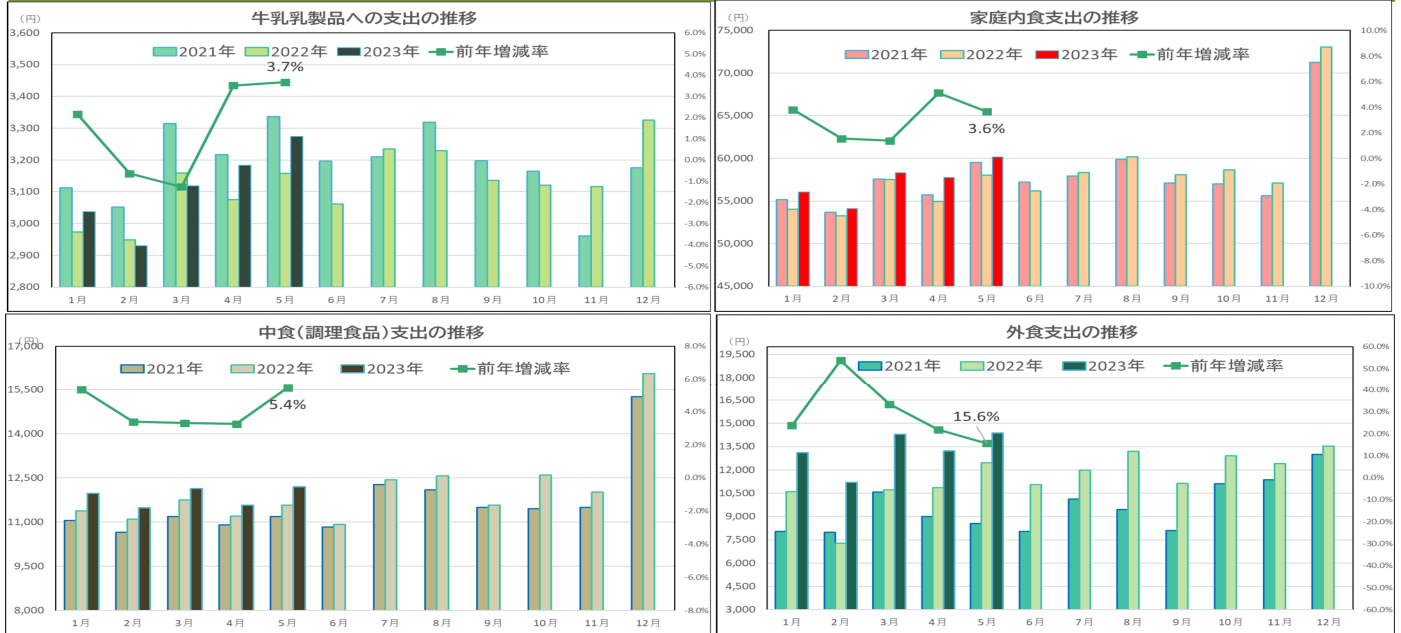
(1)6月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は439千円(前年同期比80.8%)、育成牛価格は209千円(同92.1%)、和牛素牛(去勢)価格は678千円(同89.3%)、F1素牛(去勢)価格は347千円(同97.7%)、F1初生(雄)価格は119千円(同63.5%)。初妊牛は先月よりも更に下落し、2ヶ月連続で40万円台となった。F1初生(雄)は4ヶ月連続で10万円を上回った。ホル初生(雄)価格は64千円(同56.6%)となった(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同94.4%、育成牛:同166.2%、和牛素牛(去勢):同97.6%、F1素牛(去勢):同99.4%、F1初生(雄):同108.8%。※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



【家計支出の動向】

- (1)5月の支出額前年比について、外食115.6%、中食105.4%、内食103.6%と前年を上回り、食料全体への支出額は105.7%となった。
 - (2)牛乳乳製品の支出額についても、前年を上回った。(牛乳乳製品全体前年比:103.7%、(うち牛乳100.8%、乳製品105.6%))
 - (3)なお、5月の牛乳購入量は、92.8%(1世帯当たり5.77L)と9か月連続で前年を下回った。(※下記グラフに掲載無し)
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】

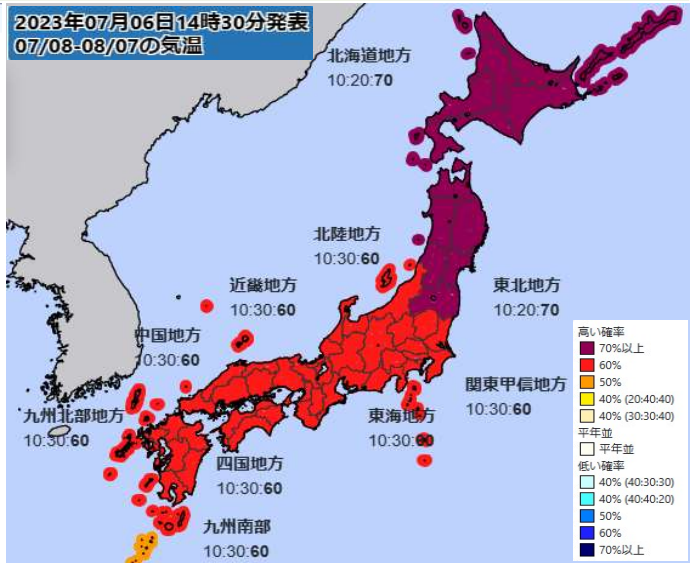
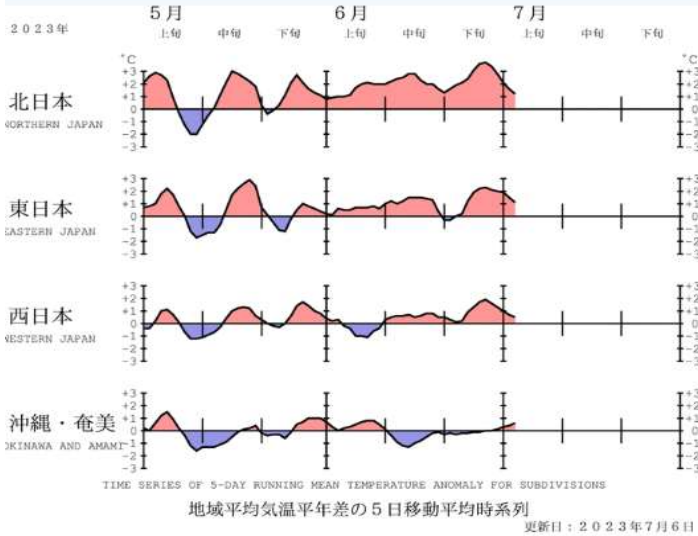


【気象庁HPより全国1ヶ月予報(7/8-8/7)抜粋】※7/6気象庁公表

北日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は天気は数日の周期で変わるでしょう。東日本日本海側では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(6月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,700ドル/トン、バター5,200ドル/トン中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,800ドル/トン、バター5,350ドル/トン、チエダーチーズは4,650ドル/トン中心

※出典:米国農務省(USDA)

